

瀬戸内海道遺跡めぐり

丹羽佑一



- 1 サヌカイト塩飽山地の道（旧石器時代編）：瀬戸大橋サヌカイト・ウォーキング
- 2 サヌカイト周遊海路（縄文時代編）：シーカヤック島めぐり
- 3 鐸・剣・矛東西航路（弥生時代編）：クルージング島めぐり
- 4 石棺瀬戸内航路（古墳時代編）：大型フェリー東瀬戸内線
- 5 古代山城東アジアの道（古代編）：サイクリング南海道
- 6 塩飽水軍巡回航路（中世編）：上乘り海上タクシー島めぐり

本文は香川県下を中心にした中部瀬戸内島嶼、沿岸部の遺跡の観光資源化を検討した結果を報告するものである。

「遺跡」は、過去の人々の活動結果であるから、歴史の存在を示すものである。私たちは「遺跡」によって歴史を確認し、歴史によって、いまいることの根拠とする。もっとも遺跡は歴史そのものではない。歴史は現在に至る私たちのストーリーであるから、同時代の遺跡群の「関連」、異なる時代の遺跡群の「関連」として私たちに対し語られるのである。

観光の異なる文化の体験という側面から、遺跡と観光の関係をとらえると、遺跡群を訪れ、その「語り」に耳を傾けることが観光ということになる。ストーリーをもつ「遺跡めぐり」である。単に一つの遺跡をみる、それだけでは観光にならないのである。

瀬戸内の島嶼、沿岸の遺跡群を関連づけるものは、当然ながら海運であり、これが瀬戸内の歴史の特質となっている。したがって遺跡めぐりの移動の大半は海路にしたがうことになる。

① サヌカイト塩飽山地の道（瀬戸内海道旧石器時代編）

—瀬戸大橋サヌカイト・ウォーキング

香川県ではサヌカイトの原産地が坂出市と高松市の境界に集中する。五色台と金山である。

サヌカイトは2万年前から2000年前の1万8000年間の長きにわたって石器石材として用いられた。2万年前からおおよそ1万年前の旧石器時代では特に五色台のサヌカイトが用いられ、盛んな旧石器人の生活と石器製作を示す大規模な遺跡が、国分寺町・国分台に残されている。そこでは、サヌカイト用に開発された世界で唯一の石器製作技法—瀬戸内技法で作られたナイフ形石器（国府型ナイフ形石器）が注目されるが、さらに遺跡の大規模性に目を奪われる。当時は移動生活であったから、たくさんの旧石器人が国分台にやってきて、石器を作り、生活したのである。石器石材が手にはいる絶好の移動先であった。しかし、どこから来たのであろうか。これに応えるのが瀬戸大橋の架かる塩飽の島の旧石器遺跡群である。本四架橋の建設工事に伴う発掘調査で50万点に及ぶ石器が出土したのである。与島の西方・東方遺跡、羽佐島遺跡が著名である。ここにもたくさんの旧石器人が来ていたのである。当時瀬戸内海は幅10kmほどの大地溝で、四国側、山陽側から流れ込む河川を受けて大河が東西に貫流し、本四架橋の島々はそれを横断する分水嶺であった。五色台のサヌカイトを求めた山陽側の旧石器人の通交の地として架橋の島々の旧石器遺跡群が位置付けられるのである。国分台遺跡には、四国側、山陽側の旧石器人が集まっていたのである。なお、同じくサヌカイトを産する金山での石器生産は盛んではない。生活地としての条件が五色台より劣っていたものと思われる。



写真1 与島から沙弥島を見る。

このサヌカイトを求めた旧石器人の往来する道は、2万年後瀬戸大橋として復活した。この遺跡めぐりは、その歴史から瀬戸大橋を徒歩で歩くのが相応しい。ただ終着点は国分台になるが、瀬戸大橋から遠く離れていることと、高所であることから、金山かひとつ手前の沙弥島が適当であろう。1日を要する。途中の与島に休憩所・ガイダンス施設が欲しい。

② サヌカイト周遊海路（瀬戸内海道縄文時代編）

—シーカヤック島めぐり

縄文時代に入ると、瀬戸内大地溝に海水が流入し、6000年前頃、現在の瀬戸内海が出来上がる。人々の生活も大きく変わった。定住を始めたのである。安定した生活は特に老人、子供に良好な生活を保障したが、石器生産という面では困難な事態が持ち上がった。特に山陽側縄文人は日常生活を中断し、瀬戸内海を丸木舟で渡って、香川のサヌカイト原産地まで旅をしなくてはならなかった。しかし、この時代最も広範囲で金山のサヌカイトが用いられるようになったのである。反対に五色台のサヌカイト利用は衰えた。おそらく、金山の麓近くまで海が迫っており、舟の利用に適した立地であったことがその差異をもたらしたと思われる。また、山陰の隠岐の黒曜石、広島県西部・冠山のサヌカイトなどと比べた時、金山サヌカイトの広範囲の利用にはその埋蔵量の多寡が関係していることも考えなくてはならないが、それ以上に、金山には流通の専門集団が想定できることである。架橋の島々の入り江に残された遺跡は小規模で、通年の生活は考えにくく、一年数日の利用である。島の縄文人は瀬戸内海の島々、津々浦々を巡っていたものと思われる。定住でなかった理由、それは金山のサヌカイトを瀬戸内沿岸各地に運び込む生活に求められるのである。特異な生態は、彼らを漁民でなく「海民」と呼ぶに相応しい。なお、川をさかのぼり、中国山地奥深くまで移動するものもいたかもしれない。

この遺跡めぐりは海路をとる。瀬戸大橋の島々をカヤックで巡るのがその歴史に相応しい。ここでも与島にガイダンス施設を求めたい。

③ 鐸・剣・矛東西海路（瀬戸内海道弥生時代編）

—クルージング島めぐり

弥生時代中期（2200年前頃）に入ると、瀬戸内海の島嶼、沿岸の高所、瀬戸内海の眺望の極めて優れた地点に集落が営まれるようになる。香川県下では三豊市詫間町・紫雲出山遺跡、丸亀市広島・心経山遺跡、土庄町豊島・壇山遺跡等が知られる。水稻農耕を生産の基本とした弥生時代の集落が、それに不適當な立地を選んだことには特別の理由があったものと考えられている。1950年代後半の京都大学考古学研究室の紫雲出山遺跡の発掘調査は、立地に加えて、発達したサヌカイト製の武器の出土から瀬戸内海の沿岸・島嶼の軍事情勢を把握するための情報基地としての役割を導き出した。魏志倭人伝が記録する「倭国大乱」を想定するのである。しかし、最近の弥生時代の年代観によると「倭国大乱」は弥生時代後期に位置づけられる。高地性集落と倭国大乱は年代が合わないのである。紫雲出山遺跡の貝塚では大型の鯛やサザエが出土する。紫雲出山人は山上の海の民である。立地



写真2 金山で地表の石器の分布を調べる。



写真3 沙弥島ナカンダ浜遺跡を見る。



写真4 庄内半島先端から紫雲出山を見る。



写真5 紫雲出山遺跡から瀬戸大橋の方向を眺める。手前が栗島。



写真6 復元された竪穴式住居（紫雲出山遺跡）



写真7 復元竪穴式住居の中（紫雲出山遺跡）

の特徴と合わせて、瀬戸内海海上交易のパイロットとしての役割も考えられるのである。当時、香川県の平野部の諸勢力には北部九州地方から銅剣、銅矛、巴型銅器、中国の前漢鏡が、近畿地方から銅鐸が海上輸送によってもたらされている。諸勢力は高地性集落との連携によってこれらの品々を入手することができたのであろう。

この遺跡めぐりは中部瀬戸内海の広範囲を移動するから、クルージングによるのが相応しい。庄内半島の紫雲出山遺跡－丸亀沖の広島・心経山遺跡－土庄町豊島・壇山遺跡をめぐる船旅である。ガイダンス施設は紫雲出山頂にある。

④ 石棺瀬戸内航路（瀬戸内海道古墳時代編）

－大型フェリー東瀬戸内線

古墳時代前期の中頃（1650年前頃）、讃岐の王の一人が高松市・国分寺町の鷲ノ山石を用いた棺を考え出した。石を削り抜いて身と蓋にした棺で、最古のものは丸亀市綾歌町・快天山古墳の後円部に頭を出している。竹を半裁したような形をしているので割竹形石棺と呼ばれ、古墳時代の初めに作り出された割竹形木棺に近い形であることが、最古の根拠となっている。程なく、さぬき市津田町の赤山古墳にも地元の火山石製の棺が用いられ、製法は熊本県北部にも伝わる。石棺は地元だけでなく、鷲ノ山石製は大阪府柏原市（安福寺境内）に運ばれ、火山石製は徳島県鳴門市（大代古墳）、岡山県備前市（鶴山丸山古墳）、大阪府岸和田市（貝吹山古墳）に運ばれた。また阿蘇石製の石棺も愛媛県松山市（蓮花寺）、香川県観音寺市（丸山古墳）、岡山県備前市（小山古墳）、兵庫県たつの市御津町（竜野高校）、京都府八幡市（八幡茶臼山古墳）、そして不思議なことに、鷲ノ山石製が分布する高松平野沖の屋島（長崎鼻古墳）にも運ばれた。石棺は重いものであるから、運送には水上交通が用いられたと思われる。石棺が運ばれたルートから瀬戸内海航路は四国沿岸を通る瀬戸内海南岸航路と燧灘で分岐する北岸航路の2つの航路が知られるのである。そして南岸航路は河内潟を南行、旧大和川を遡り、生駒山地を抜け、奈良盆地南辺に至る。一方北岸航路は河内潟から淀川・木津川を遡り、奈良盆地北辺に至る。いずれもターミナルは畿内政権の中枢に位置する。このことによって二つの瀬戸内海航路は畿内政権が運用していたことが知られるのである。朝鮮半島の鉄の獲得、西日本諸国の王権を畿内政権の傘下に治めるという二つの政治課題を解決するためには不可欠の航路であった。特に吉備の王を牽制するためにも南北兩岸の二つの航路を必要としたのである。讃岐の王と柏原の王は、いずれも瀬戸内海南岸航路の地理的要衝に位置することを通じて、特別の結びつきを持つに至ったのであろう。二人の王は畿内政権の航路経営に参画したことも推察されるのである。瀬戸内航路は地方王権が畿内中央政権の傘下に治められてゆく軌道でもあった。この遺跡めぐりは大型のフェリーが相応しい。高松－神戸。船室では古代史講座が開かれる。大阪・奈良へは鉄道を用いる。ガイダンス施設は香川県立ミュージアムと柏原市歴史資料館に求めることができる。



写真 8 石清尾山石船塚古墳の石棺



写真 9 快天山古墳の石棺



写真 10 三谷石舟塚古墳の石棺



写真 11 柏原市安福寺境内の石棺



写真 12 柏原市安福寺境内の石棺の線刻文様



写真 13 柏原市松岡山古墳の石棺（1側板は鷲ノ山石製）

⑤ 古代山城東アジアの道（瀬戸内海道古代編）

—サイクリング南海道

663年、錦江近郊の白村江の海戦で倭國と百濟遺民連合軍は、唐と新羅連合軍に大敗を喫し、倭國は直ちに朝鮮海峡、北部九州、瀬戸内海に国土防衛のための城を建設した。今日、古代山城と呼ぶものである。もっとも研究史上、久しく神籠石系山城と朝鮮式山城の区分があった。日本書紀に記録されている城に後者の名称が与えられ、それ以外の研究初期に石垣や土塁を神域守護施設とされたものに前者の名称が与えられたのである。しかし発掘調査が進むにつれて、2者は同時期に属することが明らかになり、同じ歴史的性格をもつ構造物ということになっている。しかし、なぜ同じものが、日本書紀編纂において異なる扱いを受けたのか、これについてはなお明らかではない。香川県下にはこの2種の山城がある。朝鮮式山城として屋島城、神籠石系山城として坂出市・城山城がある。ともに国史跡に指定されている。屋島城は浦生集落の奥谷を堰き止める石塁として知られていたが、南嶺頂上における1998年（平成10年）の平岡岩夫さんの石垣の発見、高松市教育委員会の城門の調査でその全容が明らかになりつつある。平成26年度公開予定で城門の復元工事が進む。城山城は推定讃岐国府に近接してある。完存する城門1基、ホロソ石・マナイタ石等城門部材数基分、水門1基、山腹を上下二重に巡る石塁、土塁、山頂の大型礎石建物1基が知られる。香川県におけるこの2城の在り方は、屋島城に純軍事的機能、城山城に戦時における国衙機能を想定できることから、古代山城に機能の分担があったことを伝えるものであろう。2城の遺跡めぐりは、鉄道、車、そして当時の官の交通は馬と考えられるから、自転車が一番相応しいと思われる。県立ミュージアムにガイド施設を求めることができる。なお、この古代山城の旅はその歴史的背景から、瀬戸内海の山城めぐり（岡山県総社市・鬼ノ城、愛媛県西条市・今治市・永納山城等）、朝鮮海峡を越えて朝鮮半島の城めぐりをもって完結する。将来の事とはなるが、世界遺産一東アジア古代山城の旅である。



写真 14 屋島城の石垣



写真 15 屋島城・浦生の石塁



写真 16 坂出市・城山城の門



写真 17 城山山頂の大型礎石建物



写真 18 城山と推定讃岐国府跡



写真 19 讃岐国分寺の僧坊跡覆屋



写真 20 愛媛県西条市／今治市・栄納山城から瀬戸内海を見る



写真 21 岡山県総社市・鬼ノ城の復元城壁

⑥ 塩飽水軍巡回航路（瀬戸内海道中世編）

—上乗り海上タクシー島めぐり

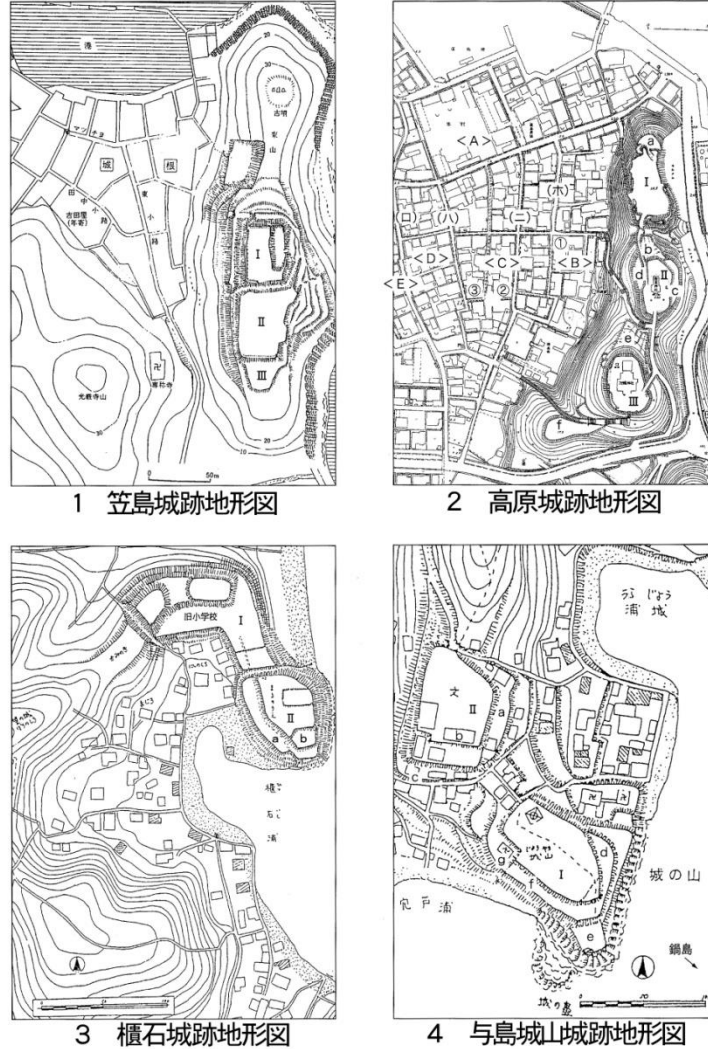


図1 塩飽水軍の山城

「上乗り」とは、水先案内をするために乗り込むことである。塩飽一帯の豪族は支配海域に入る通過船に乗り込み上乗り料を徴収した。また通行料として関役を徴収した。1420年「宋希環（日本回礼使）の護送、香西資載備前で乗船」はその一例である。料金の公的な徴収の根拠は、大名の水軍として働く武士団としての性格からきている。そのような豪族が、笠居を拠所とする香西氏を頭目に緩やかなまとまりを形成し、大内氏、毛利氏の水軍として働いた。1520年「大内善興の朝鮮出兵に、塩飽（本島）の宮本佐渡守・子助左衛門・吉田彦左衛門・渡辺氏が船三艘で参陣した」と記録されている。これが塩飽水軍であり、かれらの居城が塩飽の島々に残されている。与島の城山城跡、櫃石島の櫃石城跡、直島の高原城跡（城主高原氏）、本島の笠島城跡（城主高階氏？）である。これらの城は共通した特徴を持っている。いずれも港湾を馬蹄形に囲む山丘の片袖部に立地し、山丘下の屋敷地が城郭を縁

取っているのである。城は港湾の管理・防衛、出撃のための周辺海域の見張り台の機能を専らとするものである。また屋敷地を基盤に発展した街区の代表が丸亀市塩飽本島町笠島伝統的建造物群保存地区であり、類する街の歴史が直島にも求められる。このように塩飽の島々の町は漁村ではなく、いわば城下町一町やとして発展したもので、塩飽らしいたたずまいを今に残している。特に本島には 1207 年、法然上人が四国に流された折寄宿した荘園領主高階氏の館跡（笠島城跡あるいは専修寺）があり、江戸時代のものとして年寄による人名自治の役所として寛政 9 年（1797）に設けられた「塩飽勤番所」（国史跡）がある。また東光寺には重要文化財・平安時代木造薬師如来像がある。

塩飽水軍は中小の早船を操った。彼らの古城が残る島めぐりは快速の海上タクシーが相応しいと考える。ガイドンス施設は塩飽勤番所に求めることができる。